ＮＩＥワークシート／中学校～高校／社会、総合

顕在化した同調圧力　記事②　問題

名前【　　】

神戸新聞 2020年12月24日 木曜日 面名 朝特１ １３ 5ページ

「自分と関係ない人」、怒りのはけ口に

多様性認めれば生きやすく

新著「同調圧力」が話題の作家・演出家鴻上尚史さん(62)に聞いた。

同調圧力とは少数意見や異論を持つ人に対し、暗黙のうちに周囲と同じ行動を強制すること。世界中にありますが、日本は「世間」というメカニズムが生み出している点が特徴です。世間とは自分と関係ある人だけの世界。知らない人たちで形成された世界は「社会」と呼びます。

今春、会員制交流サイト（SNS）上の中傷はかつてないほど激しかった。演劇界や音楽界も中止しないと「結局は金が欲しいだけか」などとバッシングされました。

同調圧力が中傷や相互監視につながるのはなぜか。一つは、コロナ禍で理不尽な目に遭った怒りをどこにぶつけていいのか分からず「俺が我慢しているんだから、おまえたちも我慢しろ」と吐き出す。もう一つは、時流に乗って正義を振りかざす。いずれも自分を認めろという「承認欲求」が根底にあるのでしょう。

怒りが為政者ではなく、感染者などの困っている人に向かうのは「世間」の特徴。共同体をつかさどる側ではなく「共同体のルールを破ろうとする人」を問題視します。

（目立った集団感染が報告されていない）パチンコ店が批判の対象になったのは、こんな時にパチンコで遊ぶような人は自分とは関係ない「社会」に属する人間だと思えるから。同調圧力が凶暴化する原因はそこです。行政も声の大きい「世間」の人々に従い、休業を強く迫ったのでしょう。「社会」は法がルールですが、「世間」は感情がルールになります。

個人の多様性を認める流れは変わらず、みんな同じだという「世間」はほころんでいきます。価値観が多様化しているのに、コロナ禍を機にパチンコや夜の街といった分かりやすい「仮想敵」をつくって一つにまとまろうとする。もうそんな時代ではありません。

会社や学校、家庭を、自分を支える唯一の「世間」と思わず、習い事でもボランティアでも、いくつかの緩い「世間」に属する。「社会」を信頼し、知らない人とでも助け合おうと考えれば、生きやすくなります。

◇　◇

こうかみ・しょうじ　1958年、愛媛県生まれ。

「同調圧力」著者、演出家

鴻上尚史さん

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

①記事①を読んで、特に心に残ったところをあげ、そのことに対する自分の考えを書きましょう。

②記事②を読んで、感想を書きましょう。